

[04_03]九州大学大型計算機センター広報 : 4(3)

<https://doi.org/10.15017/1467976>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 4 (3), pp.1-54, 1971-06-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

システムの変更について

センターニュース (No14) ですでに通知しましたが、3月の下旬よりハードウェアの構成がえを行ない、4月1日より新ハードウェア構成に新ソフトウェアをのせてフィールドテストを開始しました。その間センターでは新負担金システムの完成を急ぎ、3月以前のシステムのほぼ同程度の安定さが得られたので、5月1日より新システムでの稼動にふみ切りました。今回の変更の主たるものは次のとおりです。

1. ハードウェア (増加した機器)

(1)磁気ドラム (2.56 MB / 1モジュール) 2モジュール MB = 1,000,000バイト

(2)集合ディスクパック (29.17 MB / 1モジュール) 6モジュール

*詳細は構成図をご参照ください。

2. ソフトウェア

従来の制御プログラム (E020 系列のシステム) が全体的に改造されました。これにより、処理効率はかなり上がり、特殊ジョブで使用できる最大記憶量が若干増加しました。

3. 運用方式

(1)新負担金算出基準により負担金を徴収します。

(2)ジョブ種別とその内容が従来のものとはかなり変わりました。(ジョブ種別についての項を参照してください。)

(3)ジョブ制御マクロ (コントロールカード) が全面的に変わりました。

(ジョブ制御マクロについて、一覧表の項を参照してください。)

(4)共用ボリュームの利用方法が全面的に変わりました。

(センターニュースNo15をご参照ください。)

利用者の方々が新システムと利点を上手に利用されれば従来より短いターンアラウンドタイムと安い負担金で、かなり柔軟性のある利用ができるものと思っております。

ハードウェアシステム

